

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学
2020 年度教育プログラムに関する
自己点検・評価報告書

2022 年 3 月

就実大学自己点検・評価・改善委員会
就実短期大学自己点検・評価・改善委員会

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学
「2020年度教育プログラムに関する自己点検・評価報告書」について

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学では、「内部質保証の方針」、さらに就実大学学則第2条、就実大学大学院学則第3条、就実短期大学学則第2条に基づき、毎年、教育活動についての自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教育研究水準の向上と、就実大学学則第1条、就実大学大学院学則第2条、就実短期大学学則第1条に掲げられた目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動の状況について行うものである。

自己点検・評価の対象は(1)「教育の質保証のための自己点検・評価活動」(アセスメント・ポリシーに基づく教育効果・学修成果のアセスメント)、(2)「中期計画に基づく教育研究活動全体の自己点検・評価活動」である。この報告書は(1)「教育の質保証のための自己点検・評価活動」(アセスメント・ポリシーに基づく教育効果・学修成果のアセスメント)についての報告である。(2)については別途公表する。

教育の質保証のための自己点検・評価の対象期間は、2020年4月1日から2021年3月31日までである。各学部・学科・研究科では、この期間に実施した教育活動を対象に、アセスメント・ポリシーに基づき、学生の学修成果及び教育プログラムの有効性等について検証を行った。さらに、各学部・学科・研究科における教育プログラムレベルの自己点検・評価に基づいて、全学レベルでの点検・評価を実施し、「就実大学・就実大学大学院自己点検・評価・改善に関する外部評価委員会」及び「就実短期大学自己点検・評価・改善に関する外部評価委員会」(以下「外部評価委員会」)による検証・評価を受けた。

就実大学自己点検・評価・改善委員会
就実短期大学自己点検・評価・改善委員会

就実大学・就実大学大学院・就実短期大学 2020年度教育プログラムに関する

自己点検・評価報告書

全体の総括（大学）

本学では、2019年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、学部・学科の各DP（ディプロマ・ポリシー）項目について卒業年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2020年度の各学部・学科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2020年度卒業生は十分な質的水準を満たして卒業しており、また入学後2年終了時点（薬学部は入学後4年終了時点）の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達していたことから、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。一方で、外部評価委員会からも指摘されたように、学生アンケートや各種の調査から得られた指標に基づき、学生の理解度・満足度を向上させるための改善策を検討することが必要である。

各学部・学科の点検・評価の概要

<人文科学部>

人文科学部では、「歴史、文化、人間に関する理解と、修得した知識を基に、現代社会の現状を論理的に捉えることができ、更なる充実、発展のために社会に貢献することができる」をはじめ、5つの学部DP項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムに対する高い満足度と教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を測定し、順当に能力が養成されていると推測している。ただし、学部DP4（「多様な文化及び歴史に対する理解力、協調に必要な論理的思考力と表現能力を身につけている」）に関して、成長実感が比較的低いという結果が表れているため、今後改善を進めていく。

・表現文化学科

表現文化学科では、「日本の言語と文化について幅広い学識と理解を身につけ、その学識を活かして社会及び文化の諸問題を解決できる」をはじめ、3つの学科DP項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケ

ートの結果と卒業研究評価、各 DP に関連する科目の成績等に基づいて学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については 2 年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に関連する主要な科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。今後は、各科目の内容の充実を図るとともに、一部の成績不振者に対しては、学修支援に向けた的確な対応を行っていく。

外部評価委員会において指摘を受けた点については次のように対応を進める。成績不振者のほとんどが高等学校在籍時から、あるいはそれ以前から、学修習慣を身に付けておらず、また、本学科で学ぶカリキュラムと教育方針について正確に理解しないまま、推薦入試の枠に応募して合格した学生である。そのため、指摘された問題に対する最も効果的な対策は、大学における学修生活を習慣化するうえで特に重要な、初年次教育内における工夫である。

本学科は担任制を布いて、一年生の学修生活を支えている。そこで各担任教員に、学生の学修状況（出欠・履修科目の理解度・課題提出度・生活リズム等）を細かに調査し、学生が困難を感じている場合にはその事態へ具体的に対処し、先述した学修習慣を身に付ける指導をこれまで以上に綿密に行う。また、大学の履修科目成績評価において大きな割合を占めるレポートの書き方、ひいてはレポート課題へ適切に応答するための資料の探し方と分析方法についても、初年次教育において、入念に指導していく。

もう一つ、この問題に対する間接的な対策として考えられるのは、本学科入学を志望する受験生向けに、学科カリキュラムおよび教育方針を確実に理解させる入試広報を行なうことである。というのも、先述したように、主な成績不振者は、学修習慣を身に付けないまま、本学科のカリキュラムと教育方針を正確に理解せず、推薦入試の枠へ応募してくる学生だからである。

以上、二つの対策を通して、外部評価委員会により指摘された問題点の改善を図りたい。

・実践英語学科

実践英語学科では、「ビジネスや教育の現場で単に英語を運用するだけでなく、英語と日本語の言語的差異、および各言語圏の社会・文化・思想・価値観の差異を踏まえて、英語を実践的に駆使することができる」をはじめ、3つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については 2 年生の学修状況を、単位取得状況と、各 DP に主に関連する科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。これらの状況を受けて、2022 年度のカリキュラムの一部改訂に向けて、現在順調に検討を進めている。

なお、一部科目に見受けられた成績分布の偏りについては、当該教員と成績評価に係る方針を改めて確認・共有し、同種の偏りが再発しないように取り組む。

・総合歴史学科

総合歴史学科では、「世界の諸地域における歴史の理解と修得した知識を基に、現代世界の状況を正確に把握し、社会の発展のために貢献することができる」をはじめ、4つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を、単位取得状況と、各 DP に主に関連する科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。今後は、各学年に少数ではあるが成績不振の学生もいるため、よりきめ細かな対応に努めていく。

卒論ループリックに基づく評価が徹底されていなかったという反省を踏まえて、2021年度卒業生から全員についてループリックによる評価を行うこととした。さらに、2021年度の評価に基づき、学科会議において2022年度に向けたループリックの改訂を行うなど改善を進めていく。

<教育学部>

教育学部では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育に関する確かな知識と技能をもち、子どもを「教え導き考えさせる」ことと「受容し支えケアする」に専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業時アンケート結果、各免許取得率等を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に関連する主要な科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。現在も教育内容や方法の工夫として、卒業研究の内容や評価の見直しに取り組んでるが、今後は他の科目についても個々の科目担当者や担任の対応に終わらせず、学部、学科の FD 研修を行い課題を共有していく。

2020年度は、特に主要科目の単位修得ができなかった学生が10%程度いたため、学部 FD 研修会でその要因を検証し共有した。また、成績分布の偏りも見られたが、いずれもオンライン授業による評価方法の課題、受講する学生の自己管理の課題など、対面授業とは異なる状況が要因であることが推測され、個々の学生や授業特性に応じた対応が必要と考えている。また、統率力の伸長に課題があるように見えており、現状を把握するところから進めていきたい。

・初等教育学科

初等教育学科では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育に関する確かな知識と技能をもち、子どもを「教え導き考えさせる」ことに専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施し

ている。卒業年次生については、卒業時アンケートの結果と卒業研究評価、免許取得率等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に関連する主要な科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組みとして、教育職員免許法及び同法施行規則改正を受け、幼稚園教諭一種免許取得のための新しい教育課程の編成を順調に進めている。

また、今回の自己点検・評価を進める過程で、教育実習に関わる科目の一部に、成績分布の偏りが見られた。この要因を探った結果、該当の科目では、実習の評価を総合評価の結果を基に素点化しているために起こったことであることが分かった。そこで、次年度以降は、教育実習科目の評価については、保育所、施設、小学校、特別支援学校のいずれの教育実習においても明確に設定している「観点別評価基準表」の項目ごとの評価結果を素点化するよう統一し、より正確な評価となるようにしたい。

・教育心理学科

教育心理学科では、「広く豊かな教養と誠実な人間性を備え、教育心理・養護教育・特別支援教育に関する確かな知識と技能をもち、カウンセリング・マインドをもって子どもを「受容し支えケアする」ことに専門性と実践力を発揮することができる」をはじめ、5つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、卒業時アンケートの結果等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については2年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に関連する主要な科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、2022年度のカリキュラムの一部改訂に向けた検討を順調に進めている。

今回の自己点検・評価を進める過程で明らかになった成績分布の偏りに関しては、実習系と講義系の科目に分割し、検討する予定である。どちらの形式に関しても、コロナによるオンライン形式に伴う評価方法の変更が、ある種の偏りを生じている可能性もある。そのため、評価基準の偏りへの対応が、評価基準を単にあげるにとどまらず、それが発生した原因の把握を進めている。分析の結果、評価の偏りが、一時的なものや受講生の特性に起因する場合には、安易な評価基準の上昇は、教育の破綻を導くと思われる。特に、一年次配当の科目であるならば、慎重に検討を行う必要があると考えている。

<経営学部>

経営学部では、「社会でビジネスプロフェッショナルとして責任を果たせること」をはじめ、3つの学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、卒業時アンケートの結果等を中心に学修成果を測り、全体として学科の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生について

は 2 年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に主に関連する科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。ただし、一部の科目の成績分布において S 評価への偏りが見られたことから、次年度以降はこの原因を究明し、今後改善を進めていく。また、改善・向上に向けた取組み計画として、各科目の内容充実を図るとともに、現在進行中の学部改革プロジェクトの下で 2023 年度からのカリキュラム改訂を目指して検討を進めている。また、教育プログラムの自己点検活動自体の改善・向上に向けた取組みとして、次年度はさらに多様なアンケート調査のデータを活用することで、より詳細に学生の学修成果を測定して多面的な分析を行うことを計画している。

<薬学部>

薬学部では、「豊かな人間性と教養、倫理観を有し、医療の担い手としての薬剤師の義務と法令を遵守できる」をはじめ、10 の学部 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、卒業研究評価、薬学共用試験結果等を中心に学修成果を測り、全体として学部の教育プログラムの教育効果を認めることができた。また、在学生については 4 年生の学修状況を単位取得状況と、各 DP に関連する主要な科目の成績分布等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組みとして、薬学部自己点検評価改善委員会を 2021 年 3 月に開催し改善すべき点等を 2021 年度のマニフェストに反映させて共有し、マニフェストに基づいた改善計画を進めている。

学生アンケートとして、4 年次生を対象とした ALCS や卒業生を対象としたアンケートの結果は、「授業の質」、「学費に比した教育内容」、「身近な進学希望者に勧めるか」といういずれの項目においても他学部に比して厳しい評価結果となっており、学生の満足度が十分に得られていない。これらの結果を真摯に受け止め、2021 年 3 月に拡大将来構想検討委員会を開催して学部全員で検討を行った。その際に話し合った具体的対策を一覧としてまとめ、教授会で学部長より報告して、学修に困難を抱える学生に対して、科目担当、担任、学年主任が協力し、学修支援室を充実させ、皆で協力して早期・個別の対応をしていくことで教育改善を図っていくこととした。また、学部独自に掲げているマニフェストにおいても、卒業生の満足度について数値目標（2021 年度は 70%以上）を掲げているが、教育改善に取り組み、目標値達成を目指して継続して取り組んでいく。

その他、DP を踏まえたカリキュラム改善も予定しており、DP の指標となる科目を年次進行に応じて設定してプログラムレベルで達成度を測定し、その達成度を可視化することを検討している。これにより各段階において学生自身が成長を実感して学修へのモチベーションを高めることにより、より円滑な進級や卒業につながるような改善を図っていき、学生の満足度を高めることができるように取り組んでいく。

全体の総括（大学院）

本学では、2019年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、各研究科の各 DP 項目について修了年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2020年度の各研究科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2020年度修了生は十分な質的水準を満たし卒業しており、また在学生の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達しており、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。

各研究科による点検・評価の概要

<人文科学研究科>

人文科学研究科では、「研究に関わる情報を十分に収集し、適切に整理する能力」をはじめ、4つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。「単位取得状況」等を中心に学修成果を測り、十分な教育効果を認めることができた。その他の問題についても、人文科学研究科改善・検討委員会を設置し検討を進めている。

なお、外部評価委員会において指摘を受けた大学院生への授業評価等のアンケートについては2021年度に実施する。

<教育学研究科>

教育学研究科では、「深い学問的知識と高度な研究能力」をはじめ、2つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。総単位取得数、修士論文審査報告書、修了判定会議資料、臨床心理士・公認心理師受験資格の取得状況等に基づいて学修成果を測り、十分に到達目標に達し、資格取得の条件も満たしているとして、研究科の教育プログラムの教育効果を十分に認めることができた。さらに、心理学系コースでは卒業後に受験する二つの資格の合格状況から鑑みて、実践力を高めるプログラムとなっていると判断している。

しかし同時に心理学系コースでは開講科目数が多く、学生、教員の双方に過密なスケジュールとなっている。そこで、2021年度入学生より履修推奨科目を見直すとともに、研究科全体の教育課程の再編成を実施し、改善・向上に向けた取組みを継続的に進めている。

<医療薬学研究科>

医療薬学研究科では、「自ら諸問題を見出し、科学的根拠に基づいた対応ができ、地域における医療の中核を担うことができる」をはじめ、4つの研究科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。学位論文審査結果等に基づいて学修成果を測り、研究科の教育プログラムの教育効果を十分に認めることができた。また在在学生については大学院 1-2 年生の学修状況を、単位取得状況等を基に測定し、順調に学修が進んでいる

ことを確認している。

このたびの自己点検・評価において、外部評価委員会から偏り過ぎない適切な成績評価を実施することが学修プログラムの充実や改善を図る上で重要である旨の助言をいただいた。このことを受けて、本大学院担当教員全員に周知し、今後の教育プログラムの点検・改善材料としていく予定である。

全体の総括（短期大学）

本学では、2019年度に全学においてアセスメント・ポリシーを設定し、3つの短期大学 DP と各学科の各 DP 項目について卒業年次生と在学生の学修成果を測定し、それらを用いて教育プログラムの方法・内容について点検・評価を行い、改善につなげている。2020年度の各学科の点検評価の概要は以下の通りである。全体として、2020年度卒業生は十分な質的水準を満たし卒業しており、また入学後1年終了時点の学修到達度についても、各種のベンチマークに照らして十分に高いレベルに達しており、教育課程及びその内容、方法は適切であると考えられる。ただし、成績評価の適切性や、大学同様、学生アンケートや各種の調査結果を丁寧に検証し、学生の理解度・満足度をさらに向上させる方策を検討する必要がある。

・幼児教育学科

短期大学幼児教育学科では、「保育を取り巻く環境や動向を理解し、問題解決に向けて知識を活かすことができる」をはじめ、4つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、各 DP に関連する主要な科目の成績分布、幼稚園免許状・保育士資格・社会福祉主事任用資格の取得者数、卒業時アンケートの結果等を基に測定し、全体として学科の教育プログラムの教育効果を十分に認めることができた。また、在学生については入学後1年終了時点の学生の学修状況を、実習の基準科目の単位取得状況等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。また、改善・向上に向けた取組み計画として、さらに充実したカリキュラムの改訂に向けた検討を順調に進めている。

外部評価委員会では、2020年度の成績について、(1)授業によっては高成績に偏りがみられることや、(2)「音楽」「教職実践基礎演習」「教職実践演習」など同一のシラバスに対して複数クラスで開講されている授業について、評価基準を統一する必要性が指摘された。(1)については、全科学的に学期ごとに、学生からの「授業評価」と成績分布を加味した上で、授業を定期的に振り返る取り組みを行うことで成績の偏りや、アセスメント方法の見直しをする機会となっている。(2)「音楽（器楽）」については、専任教員が中心になり授業の進め方や評価に関して話し合うことで意思疎通がなされている。また、「教職実践演習」「教職実践基礎演習」については学科独自の FD 活動等とおして、担当教員が成績評価の基準について話し合う場を設けるようにするなど、改善に取り組む予定である。

・生活実践科学科

短期大学生生活実践科学科では、「豊かな人間性と社会性、倫理性を支える幅広い教養を身につけている」をはじめ、6つの学科 DP 項目を設定しており、それぞれについて点検・評価を実施している。卒業年次生については、各 DP に関連する主要な科目の成績分布、卒業

時アンケートの結果等を基に測定し、全体として学科の教育プログラムの教育効果を十分に認めることができた。また、在学生については入学後1年終了時点の学生の学修状況を、単位取得状況等を基に測定し、順当に学修が進んでいると推測している。

外部評価委員会から、授業担当者間（クラス間）の成績分布が大きく異なるとの指摘があったことから次年度以降改善に努める。また、単位が修得できなかった学生に対しては原因の究明を行った上で、受講者のモチベーションを維持するための方策を考える。